現地レポート／大井 渚　（物理科学研究科　天文科学専攻）

派遣先：台湾（中国）

派遣先機関名：台湾中央研究所天文及天文物理研究所

派遣期間：2009 年 6 月 30 日～2009 年 9 月 1 日

2009 年 8 月 3 日報告分

授業・研究の進捗状況

週 2 の授業があり、天文学の理論・観測の基礎を学んでいる。また週 1 のコロキウム・ランチトークで、派遣先の研究者の研究内容を聞くことが出来ている。そして派遣先に隣接する台湾大学の物理学部の集中講義にも参加している。
研究に関しては、与えられたデータの解析を行っている。なれないソフトを扱い、これまで扱ったことのない分野のデータを解析しているため、進み自体は遅いと感じている。また、本プログラムの参加者のうち有志の学生で実際の観測から解析・議論まで行えるオプションのプログラムに参加している。現在は SMA の観測準備までを行った。8 月の上旬に観測を行う予定である。
また台湾大学の学生主催の学生ゼミにも参加し、自分の現在の研究の進捗について英語で発表を行った。公式の発表ではないが、30 分程度の英語の発表は初めてで、結果は反省点の多いものだったが、良い経験となった。さらに 7 月末に、日本でこれまで行ってきた研究内容について 1 時間のトークをする機会があった。以前のゼミでのトークに比べ、自分の意見を伝えることが出来たと思う。違う分野の人の意見ももらえ、意味深いものであり、非常に楽しかった。

生活関連状況

食事は脂っこく、始めのうちは少し体調を崩したが、現在は慣れと自分自身の調整で問題なく過ごしている。台湾の気温も特に問題ない。ただ、過剰な冷房がつらい(台湾人には 23 度は適温らしい)。しかし、研究所の事務の方が親切にも羽織物を貸してくれて、何とかやり過ごしている。
（宿泊施設）マットがないという過酷な状況で、最初の数日を寝袋で過ごしたが、本プログラム参加者の現地の学生が親切に貸してくれて助かった。宿泊施設の門が深夜 0 時に閉まるため、研究のキリが悪くても帰らなければならない。これが最もつらい。一度締め出されかけた。
（言語）研究所内は英語での会話。指導教員は日本人だが、トレーニングのため日常は英語で会話している。非常にありがたい。参加者は日本人が私一人なため、ここでも英語が必須。ほぼ中国語圏の学生なので、学生間での情報共有レベルは、私はかなり劣ると思われる。が、英語がかなり話せる学生がいるため、“知らずに終わってしまった”ということはまだない。

その他報告すべき事項

渡航前、新型インフルエンザが心配されたが、特に騒がれている様子はない。また、私自身の体調も特に問題ない。